



『世界へのプレゼントになろう』 Be a gift to the world

RI会長 K.R.“ラビ”ラビンドラン 第2590地区ガバナー 箕田 敏彦

川崎中原ロータリークラブ会報

KAWASAKI NAKAHARA R.C. WEEKLY/2015~2016

会長・市川 功一 幹事・会田 公雄 会場監督・高瀬 建夫 会報委員長・戸張 裕康

事務所・〒211-0063 川崎市中原区小杉町 3-70-4 ホーユウパレス武蔵小杉 104

TEL.044-722-7282 FAX.044-722-0066 E-mail:info@nakahara-rc.com

◆例会場 ホテル精養軒 木曜日 PM12:30~(第2週 AM7:30~)TEL:044-711-8855(東横線 武蔵小杉駅徒歩3分)

第1349回 (本年度32回)

平成28年3月17日(木)

久地「かまど」にて移動例会

日本理化学工業(株)職場訪問

点 鐘 市川 功一 会長

司 会 高瀬 建夫 会場監督

斉 唱 「4つのテスト」

会員出席報告 神谷 直 親睦委員

本日	会員数	出席	欠席	出席率
	27名	16名	11名	76.19%
前々回(3月3日)	欠席5名	Make up 0名		88.00%

欠席者：東出会員、今井会員、高木会員、戸張会員、徳安会員

お客様紹介 市川 功一 会長

佐野 正 様 (川崎中原 RC 友の会会員
佐野デザイン事務所)

内藤 松雄 様 (川崎中原 RC 友の会会員
有限会社 フィレンツェ・ナイトー)

荒井 稔 様 (川崎中原 RC 友の会会員)

青山 優子 様 (ROTEX 2014-15 青少年交換学生)

本日のミニ情報 市川 功一 会長(3月17日)

これから訪問する日本理化学工業は、私が以前読んだ「日本でいちばん大切にしたい会社」という本の第1社目に紹介されています。社員80名の約7割が障がい者です。宮崎会員の紹介で見学が実現しましたが、友の会の佐野さんが販売する「積み木黒板」のチョークもこの会社のものです。日本の人口の約6%は障がい者。雇用も含めて私たちのできることを学びたいと思います。



会長報告 市川 功一 会長 (3月24日)

幹事報告 小林 正樹 副幹事 (3月24日)

1. 地区からの来信 本日はごさいません。
2. 川崎マリンRCより、事務局移転のお知らせ
移転日：4月1日(金)
新住所：210-0834 川崎市川崎区大島 1-26-13
石田ビル1階 TEL・FAX 変更なし
3. 他クラブ例会臨時変更
 - 新川崎 RC
3月30日(水) 休会
4月6日(水) 親睦お花見例会「太陽軒」17:45
5月4日(水) 休会
6月22日(水)-23日(木) 最終一泊例会
 - 川崎鷺沼 RC
4月6日⇒3日(日) 地区研修協議会
洗足学園 集合10:00
 - 川崎西 RC
4月29日(金)・5月6日(金) 休会
 - 川崎幸 RC
4月29日(金)・5月6日(金) 休会
6月24日(金) 最終例会 夜間例会 点鐘18:00
4. 他クラブ会報の回覧
川崎南 RC 新川崎 RC 川崎北 RC

卓 話

日本理化学工業株式会社 会長 大山 泰弘様

「重度知的障がい者に導かれた人間尊重の
皆働社会を目指して」



当社は、川崎と北海道美唄の工場を合わせて従業員83人の、学校で使うチョークメーカーで、わずかの差ではありますが、国内シェア32%のトップメーカーになっています。

それも83人のうち61人が知的障がい者で、うち半分以上がIQ50以下の重度の障がい者でありながら、彼らが生産面で頑張り、貴重な戦力となっているからです。

しかも、彼らの一生懸命働く姿から、無言の説法ともいえる導きで、人間の本当の幸せとは何か、社会はどうあるべきかまでの気づきを私たちに与えてくれたのです。

当社の創立は昭和12年ですが、障がい者雇用は、二人の生徒を「就職できないと施設で一生過ごすことになる」との先生の言葉で、かわいそうだと同情から、昭和35年に雇用したのがスタートでした。

障がい者多数雇用を目指すことになったのは、禅寺での法事の席で、ご住職と隣り合わせになり、「当社には字も読めない重度の知的障がい者が働いているのです。私からすればむしろ施設で大事に面倒を見てもらった方がずっと楽なのに何故毎日会社に来るのか不思議なんです」と話しかけましたら、ご住職は「人間の究極の幸せは、『愛されること、ほめられること、役に立つこと、必要とされること』なのです。施設で面倒を見られる人は『あなたがいなくて困る』なんて言ってもらえないでしょう。会社であればこそ、『こんな大雨の中来てくれて助かったよ』『昨日よりもたくさん作ってくれてありがとう』などと言葉をかけられるでしょう。このことが人間としてうれしい、幸せだから毎日会社に来るのです。福祉施設が人間を幸せにするのではなく、企業が人間を幸せにしてあげられるのです」と言われたのです。私の思っていることと正反対の言葉で、エッとびっくりしましたが、それならばチョーク工場では大きな会社にはなれないのだから、せめて一人でも多くの障がい者に働く場を提供できる会社で頑張ろうと決意したのでした。

知的障がい者の職場の指導は、最初は理解と経験のある福祉施設の先生を入れてお願いしましたが、実際のところその先生の下では企業にとって役立つ成長が見られませんでした。

企業の現場の従業員が直接指導に当たるようになったのは、交通信号がヒントになってからでした。それは、彼らはどんな時に自分の判断で行動するのだろうか？と考えた時、「そうだ、彼らは今一人で通勤しているが、車の往来の激しい通りを事故にも遭わずに信号を横断して来ている。信号の赤、青の色の区別はしっかりできている」ことに気づきました。

そこで、チョークの製造工程の中で、色を使って仕事ができる場所はないかと考え、材料の計量作業で試してみました。通常、材料袋は同じ形状で印刷された文字を読んで中身を判別し、重量も指示書に従って目盛の単位を見て、秤の目盛を合わせます。字が読めず数字の単位も理解できない障がい者なので、課長は材料袋よりもひと回り大きな缶を用意して赤く塗り、袋ごと缶に入れました。そして、必要な重量のおもりを同様に赤く塗って用意しました。

そして、もう一つの材料は缶を青く塗って、青いおもりを用意しました。当時、すぐに飽きて落ち着きのない従業員がおりましたので、その彼に、赤い缶から出した材料を量る時には赤いおもりを秤にのせて、針が上にも下にもつかずに真ん中で止まったら下ろすようにと教えました。すると、彼は途中で飽きるどころか一生懸命30数ロットを一気にやり終えたのです。もちろん、課長が時々そばに行って、指示通りにできているかを確認し、「すごいね。教えた通りにできているね」とほめていたそうですが、このびっくりする報告をもらって、知的障がい者は彼らの理解力の中で安心して作業ができるようにしてあげて、時々見回ってほめてあげれば、より一生懸命やってくれる人達なのだと知ったのです。

この気づきから、現場では、仕事ができないのは彼らの能力が足りないせいとせず、彼らの理解力で安心してできる仕事の与え方を考えることを管理者の責任とし、管理者一人ですべての方法が見つからない時は会社全体で考えることにしたのでした。

さらに、チョークの製造ラインの13人の障がい者の中から、規則をしっかり守れて、周りの人に親切に教えてあげられる人を選び、班長にしているので、班長が課長の助手役まで果たしてくれて、最少の健常者の職員で稼働できています。

それぞれが自分の持ち場で集中して一生懸命やってくれているので、生産性は維持でき、人件費も必要以上にかけていないので、経営も維持できているのです。

当社が障がい者雇用割合75%を超しているのは、障がい者雇用の助成金制度ができる4年前に、障がい者雇用割合50%、そのうち半数を重度障がい者を雇用すれば、金利4.7%を20年償還で融資するというモデル工場制度を国が作り、国からのすすめもあって、その制度を活用して昭和50年に川崎にモデル工場を作ったからでした。約束通り20年で借入金を返済し、現在があるのは、重度の障がい者でも、人の役に立つ幸せあるが故に貴重な戦力となることを実証してくれたのではないのでしょうか。

私は重度障がい者多数雇用の50年の中で、彼らの働く姿から、人間の本当の幸せとは何かを考えることができました。

その貴重な気づきを与えてくれたのは、工場見学に母親と一緒に来た小学5年生の言葉でした。学校で使っているチョークはどうやって作られているかを調べに来た時のお礼の手紙にこんな言葉があったのです。見学コースを案内した時の最後に、「みんな一生懸命チョークを作っているでしょう。でも君みたいに優秀な学校を卒業した人は一人もいないのだ

よ。字もよく読めない、数も苦手な障がい者で普通の小学校にも入れず特別な学校で勉強してきた人だちなんだよ」と言ったことから、「天の神様はどんな人にも世の中の役に立つ才能を与えてくださっているのですね。僕ももっと勉強して世の中の役に立つ人になります」と。彼らの一生懸命働く姿が無言の説法となって彼の心に響いて出た言葉だったのではないのでしょうか。

私はこの言葉からその後二つの言葉にめぐりあったのです。一つは、東邦大学の医学部教授が、人間すべて群れの中にいて周りの人に役立つことに心地よさ、喜び、幸せを感じず共感脳があると言われました。それは人間しか持っていないそうです。神様がすべての人間の脳の中の一部に共感脳を作って下さったのです。

また、ジャパントイムズのハンガリー人の女性記者が当社に取材に来られ、見学後開口一番に、「私たちの国、それもヨーロッパではマニュアル文化の国なので、字の読めない人は最初から雇用の対象になっていません。それが日本企業では文字の読めない人でも戦力となって働いています。日本は手取り足取りの職人文化を持っているからですね」と言ってくれました。私は職人と言うことは知っていましたが、まさか職人文化とまでの自覚はありませんでした。

当社の人に合わせた工程改良を職人文化というなら、中小企業をはじめとして日本の多くの企業が持っているものであり、この文化を活用すれば、もっともって障がい者の働く場を増やすことができると思いました。

さらに、すべての人には共感脳があり、人の役に立つ幸せを求めているのです。日本国憲法 13 条では幸福追求を最大限に尊重しなければならないとし、27 条にすべて国民は勤労の権利を有し義務を負うとあるのです。すべての人が勤労の義務を負うのですから、一般社会で働ける能力がないとして、たとえ訓練はしていても施設で一生面倒を見てもらえばよいというのは許されないのです。

幸い私は、海外視察で素晴らしい制度をベルギーで知ることができました。ベルギーはヨーロッパの一国ですからマニュアル文化の国であり、マニュアルの読めない人は一般雇用の対象になっていませんでしたが、もし企業が重度の障がい者を少しでも役に立つように働く場を提供し続けるなら、国が国の最低賃金を企業に代わって障がい者に支払う制度を設けていました。

このベルギーの制度が人間の幸せのためにも大変合理的であることは、当社が 2009 年に渋沢栄一賞をいただいた時に気づきました。社会貢献のための寄

付を一銭もしていない当社がなぜ賞をいただけたのかとお尋ねしたところ、日本では一般社会で働けないからと福祉施設で 20~60 歳までケアすると、総費用を定員で割って、40 年間で一人 2 億円以上かかっているのに、貴社は 50 年の重度障がい者雇用の中で、すでに 60 歳以上勤めた人を 5 人も卒業させています。それは 10 億円の国の財政を減らした大きな貢献に相当するからですと言われたのです。

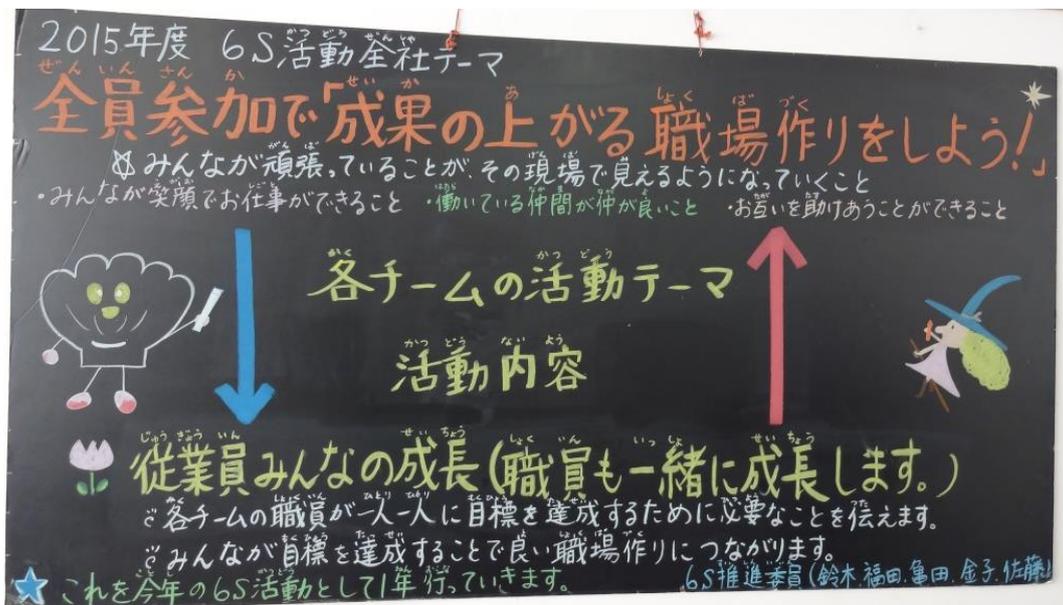
もしこのような制度が日本にできたら、職人文化を待った中小企業は、障がい者に役に立つてもらうことで経営を強化でき、しかも大きな社会貢献ができます。ならば中小企業は進んで働く場を提供するはずで、国は一人年間 500 万円の支出が最低賃金 150 万円で、一人につき毎年 350 万円削減できます。

障がい者は年間 150 万円、月に 12~13 万円を仕事の出来に関係なくもらえれば、そこから月 6~7 万円を支払ってグループホームに入れて、家族に面倒をかけず地域で自立ができ、家族は安心できます。四方一両得となります。そうなれば、憲法のすべての国民の働く義務を叶えることになり、人権尊重の皆働社会が実現できます。

当社は重度の知的障がい者の無言の説法によって導かれた、みんなが役に立って幸せになる皆働社会の実現を使命として頑張っています。

有難いことに、チョークの需要減で経営が心配される中、川崎市の応援もあって、産学連携の助成制度を活用し、粉も出ず窓ガラスに書いて濡れた布で消せるキットパスの製品化に成功し、幼児の感性を目覚めさせる子育てに役立つ商品として新たな市場ができつつあります。キットパスを川崎市内の郵便局のどこでも買える販売の応援までいただけたのです。さらに使命達成に向けて頑張りますので、皆働社会の実現に皆様の応援をよろしくお願いいたします。





働く幸せの像
彫刻制作：松阪節三氏

日本理化学工業HPより



ニコニコ報告 神谷 直 親睦委員

市川 功一 会長 会田 公雄 幹事

今日は日本理化学工業様での移動例会です。友の会ほかゲストの方もご参加いただき、ありがとうございます。障害者雇用について勉強させていただきたく思います。

山本 剛 会員

明日18日 ローター事務所にて夕方5時より、新入会員東出さんのオリエンテーションを行います。

18時頃終わりますのでその後懇親会を行う予定です。参加希望の方はその頃までに事務所までお越しください。

「みんなニコニコ」

高瀬 建夫 会員・若狭 滋則 会員・小林 正樹 会員

神谷 直 会員・小泉 正博 会員・工藤 和弘 会員

鈴木 次男 会員・仁上喜久夫 会員・古越 孝男 会員

ニコニコボックス	本日	12,000 円	累計	598,500 円
記念日ニコニコ	本日	0 円	累計	85,000 円

次回3月31日(木)の予定
クラブ協議会